

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

XIII 政党

4 公明党

6 国際活動

初の韓国訪問

一九八一年八月二五日から二九日までの五日間、竹入委員長を団長とする公明党代表団は初めて韓国を訪問し、全斗煥大統領をはじめ政府首脳と会談をおこなった。帰国後、竹入委員長は、(1)初訪韓で韓国および韓国民にたいするこれまでのイメージが若干、現実的でなかったことを感じた。(2)朝鮮半島の分断は厳然たる事実である。こうした状況のなかで韓国国民はよりいっそうの民主主義の発展と自由な社会の建設に全力でとりこんでいる、と初訪韓の印象をのべた(『公明新聞』八月三〇日付)。また在韓中の記者会見で、北朝鮮との関係を問われ、「敵対関係にあるわけではないが、九年前の訪朝以降、相互理解は深まっていない」とのべた。

公明党の朝鮮半島政策は、これまで南北等距離を基本としながらも、政府が韓国とのみ国交をもち、利権や人権抑圧などで日韓ゆ着という疑惑や不信を招いてきたことを批判し、朝鮮民主主義人民共和国との相互交流を積極的に推進することをうたっていた。しかし、初訪韓後にまとめられた「82年基本政策」では、「朝鮮半島では朝鮮民主主義人民共和国の軍事的優位がいわれており、軍事的緊張の存在することは否定できません。このことはアジアの平和と安全に影を落としており、わが国の安全保障についても無関係ではありません」との認識が示され、「日韓関係は、新しい段階にきており、国民レベルの幅広い交流を通じて、相互理解を深め、真に両国国民が納得できる新しい友好関係を築くべきです」といった方針が加えられた。

第一〇次訪中団他

八一年九月八日から二一日にかけ、竹入委員長を団長とする公明党第一〇次訪中団一行二五人は、北京、ハルピン、長春、瀋陽、大連などの中国各地を訪問するとともに、鄧小平副主席をはじめ、趙紫陽首相ら中国の党、政府の主脳と会見した。このほか、八一年十一月一六日から二六日にかけて、青年党员による「公明党訪中青年の翼」一行一五〇人(団長・鶴岡洋参院議員)が北京をはじめ中国各地を訪問した。

また八二年一月一九日から二九日にかけて、コムソモールの招待による第五次公明党青年訪ソ団がモスクワ、ミンスクなどを訪問した。

外国代表団の招待

八一年一月以降の一年間に公明党が招待した外国の代表団はつぎのとおりである。

- 八一年一月一五日～四月一四日 中日友好協会訪日団(第二次) 一行二人。
- 二月二八日～三月七日 コムソモール(全ソ連レーニン共産主義青年同盟)代表団一行四人。
- 五月一三日～一九日 ユーゴスラビア社会主義勤労人民同盟代表団

○七月二八日～八月二日 ハンガリー愛国人民戦線代表団

○十一月二日～十一月一九日 第三次中日友好学者訪日代表団一行一二人。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

■←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
